



2022
7月

園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

6月のお楽しみ会～さくら組、初めてのリーダー体験～

6月に4回に分けて行いました給食参観日は、いかがだったでしょうか。実際に試食されて、園給食へのご理解も深めていただけたことと思います。試食後のアンケートでは、ほとんどの方がおいしかったとご回答くださり、栄養士・調理員にとって大変励みになりました。

毎日の給食は、玄関ホールにケースに入れ展示しているのですが、一部の方しか見ることができませんので、どなたにもお気軽に見ていただくことができるように、今後は当日提供する給食を写真に撮り、Instagramで毎日公開します。9月開始予定です。

さて、今年度はお楽しみ会を年間7回計画しています。これまで新型コロナウイルスの影響で、数々の行事が中止になったり縮小されたりしてきて、子どもたちの楽しみを奪ってきました。今年度もまたそのようなことになったとしても、子どもたちが楽しんでくれるお楽しみ会を、たとえ小規模でもやってあげようと、新たに組み込んだ次第です。

コンセプトは、「コロナの感染状況に影響されずに必ず実施できるもの」。各担任が分担を決め、各自で内容を企画します。前例のない全く新しい試みなので、担当の腕の見せ処です。まさに本園チャレンジ目標「考える、決める、やってみる！」の師範モデルとも言えます。

第1回目の6月は、さくら組担任の野口絵未教諭がプロデュースしました。題して「忍者に変身!!!」。

園庭の遊具や跳び箱・マット・フラフープなどによる7種の修行に見立てたサーキットトレーニングを、グループで順にクリアしていくというものです。今回は感染状況がレベル2だったため、異年齢による縦割りグループを編成し、年長のさくら組の園児が下級生のお世話をしました。

さくら組のみんなは、あらかじめグループごとに色分けをした折り紙手裏剣を作り、修行の前にグループの下級生一人一人に渡しました。さっそくグループは修行モードに突入。さくら組園児にとっては初めてのリーダー体験でしたが、修行の順路を実に正確に把握しており、付き添いの教師に頼ることなく下級生を誘導している姿が多く見られました。

修行の後、グループの下級生が、「たのしかった～！」と言ってくれたことが、さくら組の子どもたちは何より嬉しかったようで、声を弾ませながら担任に報告してきたそうです。年長としての責任感を感じていたのでしょうか。同時に達成感・安堵感を味わったことでしょう。

霊長類研究の第一人者、京都大学の山極寿一総長によると、人間が他の動物と違うのは、「あらゆる生活が共にあるという心によって成り立っていること」だそうです。この「共にある心」とは、言い換えれば「他人の喜びを自分も共に喜べる心」です。人に親切にすることで自分も幸せになれる、人間はこの心を何と1歳半の頃から備え始めているのだそうです。今回のお楽しみ会で、グループの下級生が楽しかったと言ってくれたことが一番嬉しかったと伝えて来たのは、「共にある心」がさくら組の子どもたちにはすでに身に付いている証拠ですね。

とはいえ、始めの会で忍者に扮して登場し、巻き物を見せて園児に指令を出した野口教諭に対しては、さくら組の子でさえ本物の忍者なのか担任の野口先生なのか、最後まで混乱した様子。でも、さくら組のみんなが後片付けをしてきている際、園庭に「忍者の足跡」を見つけたらしく、結局、最初に現れたのは本物の忍者だったのだ、ということに落ち着いたようです。(園長 寺本 明生)

